中国、12月1日施行の規則で白酒の委託生産への監督を強化

新規則はブランド所有者を食品安全の主な責任者とし、分割生産を禁止。ラベルにブランド側と製造工場の双方の情報表示を義務付ける

2026年11月20日（金）



中国では12月1日、食品の委託製造に関する新たな全国規則が施行され、プライベートブランドや商標ライセンスなどの委託生産方式で製造される白酒への監督が強化される。

「食品委託生産の監督管理措置」と題されたこの規則は、中国の市場規制当局が第113号令として公布した。中国の酒類業界メディア「云酒头条」が11月19日木曜日に報じたところによると、食品安全を対象に、商標ライセンス、フランチャイズ、受託製造を一つの専用規制枠組みの下に置くのは今回が初めてとなる。

白酒業界の関係者は同メディアに対し、この変更によって、多くのブランドが蒸留所に生産を委託

する方法が変わる可能性があると語った。新制度では、委託者（通常はブランド所有者または販売会社）が食品安全の主な責任を負う。製造者、すなわち製品を製造する工場は、製造活動について引き続き責任を負う。規則は、いずれの側も民間契約によって法的責任を軽減できないと定めている。

これは、一部のブランドが主にマーケティングと販売に注力し、製造を外部工場に依存してきた白酒業界の一角にとって、大きな転換となる。新規則の下では、ブランド所有者は、商標をライセンスしただけなので製品の安全性に責任はない、という主張ができなくなる。

規則はまた、契約が委託生産に該当するかどうかを判断する際、形式より実態を重視する考え方を採用している。「云酒头条」が引用した業界関係者によると、「認可生産」「共同開発」「カスタマイズ協業」といった名称の契約であっても、ブランド側が製品の要件を定め、蒸留所が酒を製造して納入するなら、委託製造と見なされる可能性がある。複数の事業者が関与している場合も、資本関係や実際の取引関係から、誰が製品を主導しているかが明らかであれば、同じ原則が適用されることがある。

規制当局は、契約書上の関係の記述だけでなく、製品が実際にどのように製造・管理されているかに、より注意を払うことになる。企業にとっては、委託の実態を見えにくくしたり、ブランドと受託製造者との正式な関係を弱めたりする余地が狭まる。

規則は双方に厳格な資格要件も課す。委託者は、法律で義務付けられた食品生産許可証または食品営業許可証を取得するか、包装済み食品のみを販売する事業者に求められる届出を済ませなければならない。また、製造者の業務を監督し、食品安全上の義務を果たす能力も必要となる。製造者は有効な食品生産許可証を保有し、それに見合う生産能力と食品安全上の管理体制を備え、許可の範囲内で製造しなければならない。

白酒にとって特に重要な変更の一つは、一連の製造工程をすべて必要とする食品について、生産工程を分割することを禁じた点だ。同メディアによると、この規定は、通常、麹造り、発酵、蒸留、貯蔵、ブレンドを含む全工程を経て造られる白酒にも適用される。新規則の下では、企業がこの工程を複数の段階に分け、それぞれを別々に外部委託することは認められない。

この規定は、蒸留酒市場の一部事業者が採用してきたビジネスモデルに影響を及ぼす可能性がある。ブランドが原酒を購入し、限定的なブレンドを行った後、瓶詰めラインを借りて自社ラベルの商品を発売する方式だ。「云酒头条」の取材に応じた関係者は、最終製品を一貫したブランドの酒として販売しながら、書類上は生産工程を分割して責任や監視を逃れようとする企業を防ぐことが、この規則の狙いだと語った。

規則は新たな届出要件も設けている。契約締結から10営業日以内に、委託者と製造者の双方が、それぞれの管轄地域の県級市場監督当局に契約関係を届け出なければならない。届出には、双方の名称と住所、責任者、連絡先、許可証または届出番号、食品の区分、適用基準、契約期間を含める必要がある。届出内容に変更があった場合や契約が終了した場合も、双方は10営業日以内に報告しなければならない。

表示規則も厳格化される。委託生産された包装済み白酒のラベルには、委託者と製造者それぞれの名称、住所、連絡先を記載し、どちらが委託者でどちらが製造者かを明確に示す文言を添えなけれ

ばならない。この措置を支持する人々は、サプライチェーンの追跡が容易になり、購入者や規制当局が製品の責任主体をより明確に把握できるようになると述べている。

Luzhou Shulu Liquor Industry Co.の総経理、Deng Chaolanは「云酒头条」に対し、新規則によって双方の義務がより具体化すると語った。同氏は、届出の早期化と地域レベルでの監督により、市場で問題が発生してからの事後調査に主に頼るのではなく、問題が表面化する前の管理が強化されるとの見方を示した。

同メディアは、事業への影響について異なる見方も報じた。成都の小規模白酒メーカーで、姓のWangのみが明かされた関係者は、単なる認可だけでは足りなくなるため、新たな要件によって開発商品やプライベートブランド商品のハードルが上がると述べた。一方、Chengdu Heyifang Liquor Industryの代表、Deng Youliangは、すでに規則を順守して事業を行っている企業への影響は小さい可能性があると語った。

影響は白酒以外にも及ぶ可能性がある。白酒と日本酒の事業を手掛ける瀘州の飲料会社の創業者、Wang Wenguiは「云酒头条」に対し、委託生産は製造者の認可された事業範囲内で行わなければならないため、この規則は他の酒類にも影響すると語った。同氏によると、中国の「その他の酒類」区分で認可を受けた企業は、製造工程が似ていても、その区分外となる米酒やリキュールなどの製造を委託できない。

白酒標準化国家技術委員会の委員で、Yuankunの技術責任者を務めるZou Qiangは同メディアに対し、この規則は委託生産を否定するものではなく、標準化を図る取り組みと捉えるべきだと語った。飲料業界全体では、ブランド所有者と受託製造者の双方に、より厳格なコンプライアンス対応が求められる可能性が高い。また、委託生産が一般的な蒸留酒やその他の飲料分野で、プライベートブランドや商標ライセンスの仕組みが変わる可能性もある。

白酒企業にとって、新規則は、ブランディングと流通だけでは事業を続けるのに十分でない可能性がある、より厳しい事業環境を示している。食品安全リスクを管理する能力に加え、規制順守や文書化された品質管理が、委託生産を大規模に続けられるブランドや製造者を左右する重要性を増す見通しだ。